電気電子工学委員会 URSI 分科会
医用生体電磁気学小委員会（第 26 期・第４回）

議　事　要　旨

日　時：2026 年７月８日（水）12:00～13:00
会　場：北海道庁旧本庁舎 赤れんが庁舎 ホール およびオンライン（Microsoft Teams）
出席者：

現地参加

中園聡（電中研：委員長）、平田晃正（名工大：副委員長）、関野正樹（東大：幹事）、齊藤一幸（千葉大：幹事）、長岡智明（NICT：幹事）、日景隆（北大：幹事）、吉田映子（電中研：幹事補佐）、山崎祥他（NICT：幹事補佐）、大西輝夫（NICT）、清水久恵（北科大）、多氣昌生（都立大）

オンライン参加

和氣加奈子（NICT：連携会員）、池畑政輝（鉄道総研）、上野照剛（元・東大）、牛山明（科学院）、田畑仁（東大）、東山潤司（NTT ドコモ）、松井康人（京大）、山崎健一（電中研）、李鍇（電通大）、渡辺聡一（NICT）

欠席

小寺紗千子（名工大：幹事）、齋藤淳史（電中研：幹事）、河野隆二（横国大：連携会員）、伊藤公一（千葉大）、王建青（名工大）、黒田輝（東海大）、重光司（元・電中研）、榛葉健太（東大）、増田宏（久留米大）、松木英敏（東北大）、山口さち子（NICT）

現地オブザーバー参加

宮城浩明（HM リサーチ＆コンサルティング、都立大）

議　事：

■　議題１：前回議事録の確認

・吉田幹事補佐より、資料 26-4-1 に基づき前回議事録の確認が行われた。
・前回議事録について異議なく承認された。

■　議題２：日本学術会議 URSI 分科会について

・関野幹事より、URSI 分科会（第 26 期・第８回）の議事説明がなされた。GASS に向けたナショナルレポートの作成・提出計画について説明があった。ナショナルレポートは 2023 年６月から 2026 年７月までの活動を対象とし、国内で開催された課題ごとに英文のアクティビティレポートをまとめる形式で作成する。１～２ページのサマリーノートの追加が推奨されており、提出締切は８月３日である。また、2027 年に開催される IEEE International Symposium on Antennas and Propagation (AP-S) and JNC-USNC-URSI Radio Science Meeting について、開催計画および関係する委員会・団体（AP-S、JNC、USNC-URSI 等）に関する紹介および、2028 年の URSI Asia-Pacific Radio Science Conference（AP-RASC 2028）は富山で開催されることが決定しており、開催計画および準備委員会の構成について説明がなされた。さらに、第 27 期に向けた準備の議論が始まっており、今後、体制等に関する議論を進める予定であることが報告された。
・長岡幹事より、ナショナルレポートについては、７月中旬を目途にレポート案を作成して、幹事団に展開し、期限までに提出する旨の報告がなされた。

■　議題３：URSI-GASS 2026 の状況報告

・李委員より、URSI-General Assembly and Scientific Symposium (GASS) 2026 における Commission-K の準備状況について報告があった。プログラムは最終確定の段階にあり、現在、各セッションの座長依頼を進めている。座長リストは 7 月 20 日までに事務局へ提出する必要があり、今月中にはリストが完成する見込みである。セッションタイトルおよび発表者リストの資料については、後日共有される予定である。なお、国際委員の中の２名が URSI-GASS に参加できないとのことで、委員長の Francesca 先生と李委員が、座長が不在のセッションへの対応等も両名で進めていく方針であるとの説明がなされた。

・中園委員長より、次期 Commission-K 役員（Vice-Chair 等）の選出について報告・協議がなされた。候補者は４名であり、日本からは関野幹事が候補となっている。投票は各国の Official Member によるオンライン投票で行われ、投票は GASS 期間まで可能であることから、現時点からの選挙活動（支持依頼）が可能である。各国代表への働きかけは、知り合いを中心に個別に連絡する方針が確認された。

上野委員：過去のフランス、イタリア、日本等の委員数のバランスを踏まえると、地政学的観点からも候補者構成のバランスは取れている。各国代表による投票の仕組みを踏まえ、候補者への国際的なサポートが重要である。

■　議題４：関連学会・会合に関する報告

・日景幹事および牛山委員より、2026 年６月にオーストラリア・ケアンズで開催された BioEM 2026 の報告がなされた。欧州からの参加者減少の影響により、参加者数・発表件数は例年より減少し会議規模は縮小したものの、日本からの発表件数は参加国中最多であり、国際的な存在感を示した。低周波分野の多様なセッションに加え、AI・機械学習を活用した発表が多かったことが特徴である。表彰関係では、d'Arsonval 賞をフランスの Bernard Veyret 先生が受賞され、受賞記念講演ではご自身の研究の歴史と今後の抱負が語られた。また、Student Platform Award の第 1 位は、関野幹事の研究室に所属する Kim Hyunmin さん（東京大学博士課程）が受賞した。

・宮城オブザーバーより、BioEM の次回開催地について、中国（四川省）、ギリシャ（テッサロニキ、ロードス島）、トルコ（イスタンブール）が候補として挙げられているが、予算・規模等の詳細は未定であり、最終決定には至っていないことが報告された。中国開催に対しては日本および欧州の研究者から慎重な意見があること、今後はオンライン会議を通じて詳細を詰めていく方針であることも共有された。

・平田副委員長より、WHO および ICNIRP 関連の国際動向について報告がなされた。2026 年５月の WHO 総会（World Health Assembly）において、非電離放射線防護に関する決議が初めて採択され、ICNIRP や IEEE のガイドラインが WHO 文書において言及された。今後は国際団体間での調整や意見交換を進め、ガイドラインの調和を目指す方針である。

・齊藤幹事（千葉大）より今後の関連学会・研究会として、2026 年９月 11 日に臨床医を中心とする Microwave Surgery 研究会が開催予定であること、また、第 43 回日本ハイパーサーミア学会大会が大阪大学中之島センターにて開催され、工学分野からの発表も歓迎されていることが案内された。

■　議題５：その他

・特になし。

以上